

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	そわら		
○保護者評価実施期間	7年 4月 1日		～ 8年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	73	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	7年 4月 1日		～ 8年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○訪問先施設評価実施期間	7年 4月 1日		～ 8年 3月 31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	8年 4月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	訪問支援員が専門職の資格(作業療法士・公認心理師)を有し、10年以上の療育経験をつんでいることから、専門的視点にたった評価やそれにもとづく支援方法の提案を行う事ができる。	集団生活の場において、園や学校の考え、園や学校の先生の考えを知り、状況に合わせて実施可能な提案を行うように配慮しています。	評価や支援方法を分かりやすく伝え、子どもの心理・行動理解を元に支援を行う事ができるように支援する。そうすることにより、訪問先の機関が自主的に支援を行う事ができるように間接支援を充実させていきたいと考えている。
2	療育グループや個別訓練などで普段関わりのある子どもを対象に訪問を行っており、機関間の連絡連携がとりやすい。	保護者の同意の下、療育グループや個別訓練などの様子を訪問先の機関に報告し、包括的に子どもの様子を把握できるように支援に努めています。	療育機関と訪問先機関の連絡連携を充実させ、家庭・園や学校・関係機関が共通の子ども理解のもとに子どもを支えられる支援体制の充実を図りたいと考えてます。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問支援員の人数が不足しており、訪問回数を今以上に増やすことが難しい。	子どもの課題について客観的に評価し、支援方法を提案できる知識やスキル、園や学校の先生と円滑にコミュニケーションを取るスキルが求められるため、人材の確保や育成が難しい。	施設内での研修の実施、経験のある支援員から新規の職員へ知識やスキルを伝達する機会など、人材を育成するための仕組みづくりが必要と考えています。
2			
3			